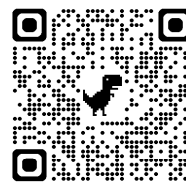


しおかぜ通信

八代市立郡築小学校
校長 村嶋 博史



学校教育目標 「自ら学ぶ子供」

R8,1,14 No,32

郡築小ホームページ

3学期の始業式を行いました

冬休み中に、子供たちに大きな怪我や事故などがなかったことを何よりも嬉しく思います。

1月8日(木)の始業式の朝、校門で子供たちを迎えていると、「おはようございます」と元気よく挨拶をしながら校門をくぐる子供が多くいて、その姿に「新たな学期で頑張ろう」という前向き姿勢を感じました。また、「あけましておめでとうございます」と挨拶する子供もいて、なんとも清々しいひとときでした。

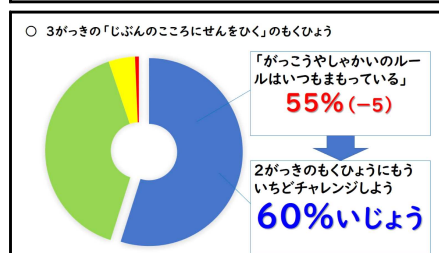
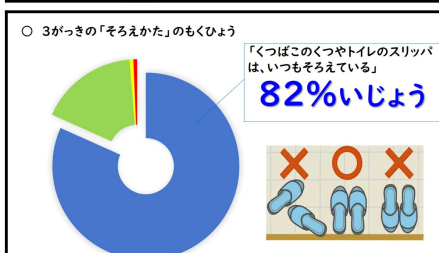
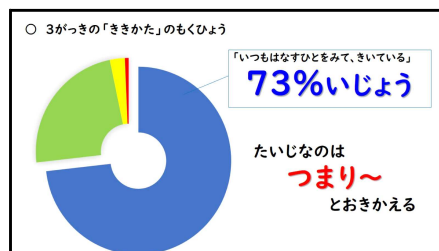
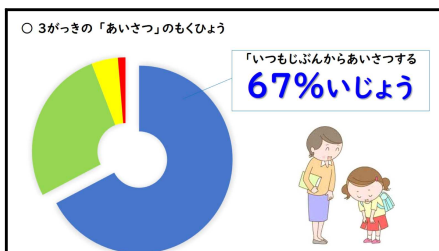
さて、始業式では、転入生(2年生)の紹介に続き、校長講話、生徒指導担当から安全な校内生活に係る話、保健担当から心と体の健康に係る話を行いました。

校長講話では、「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」の言葉から「一日一日を大切に過ごしましょう」「一年の計は元旦にあり」の言葉から「最初に目標を立て計画的に進めましょう」、「学期の変わり目は自分を変えるチャンス」ということから「これまでできなかったことや、続かなかったことなどに積極的にチャレンジしましょう」と話しました。

また、学校教育目標「自ら学ぶ子供」を目指す上で、その土台づくりとして取り組んでいる「やつしろスピリッツ(あいさつ・

ききかた・そろえかた)」と「自分の心に線を引き」の取組目標を、2学期の取組結果を基に提示しました。今後、定期的に振り返りながら、自分磨きに努めることを期待しています。

8日・9日には、PTAの方々による挨拶運動が行われました。13日には地域の交通安全協会及び女性の会の方々による登校時の交通安全指導や見守りが行われました。寒風吹きつける中、また朝のご多用の中での活動に心より感謝いたします。



「感謝する価値や必要性」を感じました

1月9日(金)に、八千把地区にお住まいの女性の方から、1本の電話がありました。

それは、「昨日(1月8日)郡築4番町の横断歩道の手前で停車したところ、下校中の男児3人が横断後に、私の車の方に向かって一礼をしました。そのことがとても嬉しかったので、『風邪を引かずに頑張ってるね』と声をかけたら、大きな声で『ありがとうございます』と返してくれ、さらに嬉しくなりました。学校と家庭の教育がよいのでしょうか。」という内容でした。

この方は、この子供たちの行為によって、きっと幸福感が満たされ、ポジティブな感情になられたからこそ、わざわざ「風邪を引かずに頑張ってるね」と声をかけられたり、そのことを学校に伝えられたりされたのだと思います。

このことは、すぐに職員と共有し、その後学級担任を通して全児童とも共有しました。子供たちにとっては、「一礼をして感謝の気持ちを伝えるというほんのちょっとした行為が、ここまで人を幸福にし、明るく前向きにする」という、行為の価値や必要性を感じるよい機会になったことと思います。

これからも、保護者や地域の方々と連携して取り組んでいる「自ら挨拶する子供づくり」を進め、子供たちが将来的にも当たり前のように感謝の気持ちを表現するように育てていきたいと思っています。

